

ハイライト

- ・時間学国際シンポジウム「幸福とは何か」

目次：

時間学国際シンポジウム 2013 「幸福とは何か」	1
公開講座 「時間学への招待」	2
教育講演・科学普及活動 in 2013 夏	2
山田祐樹さん、九大准教授に	3
時間学だより ・オリンピックがもたらす 「夢」とその先の現実	3
時間学研究所の教育活動	4
今後のお知らせ	4
・時間学アフタヌーンセミナー in 福岡「時間と災害」～天災は忘れ た頃にやって来る～	
研究グループに新たに 15 名 のメンバー加入	4

時間学国際シンポジウム 2013 「幸福とは何か」を開催

平成 25 年 7 月 26 日（金）、ニューメディアプラザ山口にて時間学国際シンポジウム 2013「幸福とは何か」を開催いたしました。



時間学研究所では定期的に国際シンポジウムを実施しておりますが、今年度は心理学と国際文化比較の観点から、幸福と時間についての学問的知見をお話し頂きました。

三池秀敏副学長による開会のご挨拶ののちに、本シンポジウムのコーディネーターの青山拓央 准教授（時間学研究所）より講師紹介が行われました。



開会の挨拶をする三池秀敏副学長

はじめの大石繁宏先生（ヴァージニア大学心理学部・教授）による講演「幸福研究の最前線 ―文化・社会心理学的視点から―」では、豊富な実証データをもとに、幸福の心理的評価に対する時間の影響等が解説されました。



大石繁宏先生

つづいてミシェル・ドボアシュ先生（岡山大学文学部・准教授）による講演「サシャ・ギトリの戯曲と映画における幸福感」が行なわれ、フランスの著名な戯曲作家ギトリの作品を参照しつつ、時間の持続と幸福との相反的な関係が考察されました。



ミシェル・ドボアシュ先生

さらに講演後には、青山拓央准教授の司会のもと、両講演者とのパネルディスカッションがなされ、海外から見た日本の幸福観や、日本から見た海外の幸福観についても、さまざまな意見が述べられました。

平日の開催にもかかわらず来場者 120 名を越す盛会となり、パネルディスカッションの最後には、聴衆との質疑応答も交わされました。



パネルディスカッションの様子

時間学研究所ニュースレター
2013 年度 第 2 号をお届け
します。今回は時間学国際シン
ポジウム「幸福とは何か」の報告を中
心にお届けします。

《時間学研究所》
〒753-8511
山口市吉田 1677-1
TEL/FAX083-933-5848
jikann@yamaguchi-u.ac.jp
www.rits.yamaguchi-u.ac.jp



公開講座 「時間学への招待」を開講

6月1日から7月6日の毎週土曜日に山口大学エクステンションセンター公開講座「時間学への招待」（コーディネーター：藤沢健太教授）を開講しました（全5回）。本講座では、時間学研究所の教員5名がそれぞれ専門分野の知見を一般市民向けに紹介しました。各回のテーマと担当講師は次の通りです。

- ① 6月 1日（土）生物の時間（担当講師：明石真）
- ② 6月15日（土）社会の時間（担当講師：右田裕規）
- ③ 6月22日（土）脳の時間（担当講師：宮崎真）
- ④ 7月 6日（土）時間の哲学（担当講師：青山拓央）
- ⑤ 7月14日（土）宇宙の時間（担当講師：藤沢健太）



開講の挨拶をする藤沢健太教授

「生物の時間」では人間を含む生物が様々なリズムや時間を持っていることについて、「社会の時間」では社会的・文化的現象としての時間について、「脳の時間」では時間にまつわる錯覚現象を紹介しながら我々の脳の仕組みについて、「時間の哲学」では幸福や価値と時間の関係について、「宇宙の時間」では宇宙における時間のありようについて、受講者の皆さんと共に考えました。

今年も、多くの受講者の皆さんにご参加頂きました（受講者数67名）。受講生の皆様にはとても熱心に講義を聴いて頂き、講義中さらには講義後にも積極的に質問やコメントを頂きました。そのなかには専門家も顔負けの鋭いものも多くあり驚かされました。例年同様に、この公開講座は、私達も受講者の皆様から刺激を受け、学ばせて頂く場となりました。この場を借りて受講者の皆様に御礼申し上げます。



講義中の風景（第5回目「宇宙の時間」より）

教育講演・科学普及活動 in 2013 夏

この夏、時間学研究所の藤沢健太教授（天文学）と明石真教授（時間生物学）が小中高の生徒・学生さんや一般市民を対象とした教育講演・科学普及活動を行いました。

<藤沢健太教授>

- ・ 7月24日（水）防府市青少年科学館ソラールが開催した「サイエンスアカデミー」に出展（小学生60名）。タイトルは「アンテナを作って電波をキャッチ」。実際にアンテナを作ってテレビの電波を受信する実験を行いました。
- ・ 8月3日（土）山口大学オープンキャンパスで電波天文学を紹介し、小型電波望遠鏡を使った太陽電波受信実験の実演を行いました（高校生30名）。
- ・ 8月4日（日）福岡県立香住丘高等学校の生徒・教員（40名）を対象に電波望遠鏡の見学会を行いました
- ・ 8月6日（火）徳山高校、山口高校、岩国高校の生徒（120名）を対象に電波望遠鏡の見学会と電波天文学に関する講演を行いました。
- ・ 8月20日（火）天文教育研究会（40名）を対象に電波望遠鏡の見学会と電波天文学に関する講演を行いました。
- ・ 8月27日（火）萩・阿武理科教育研究会研修（20名）にあたって電波望遠鏡の見学と電波天文学に関する講演を行いました。



山口市仁保にそびえる径32mの電波望遠鏡（提供：藤沢研究室）

<明石真教授>

- ・ 6月22日（土）防府市市政なんでも相談消費生活センターの主催する平成25年度第3回消費生活講座にて、「体内時計の仕組みと私達の暮らし」というタイトルで一般市民（50名）を対象に体内時計と私たちの健康の関係について講演しました。
- ・ 9月7日（土）日本成人病予防協会の主催する第25回健康学習セミナーin 福岡にて、「時間と健康～ここまでわかった体内時計と健康のメカニズム」というタイトルで病気予防につながる体内時計との付き合い方について講演しました（受講者150名）。

☆以下のサイトで、当日の講演の様子が紹介されております

<http://www.japa.org/?p=5386>

山田祐樹さん、九州大学准教授に転任

本研究所・宮崎研究室の助教の山田祐樹さんが、本年10月1日付で九州大学基幹教育院の准教授に転任しました。

山田さんは、実験心理学的研究を精力的に進めると同時に、時間学研究所フットサル部の設立と運営を先導し、研究所内外の先生や学生たちの交流の促進にも活躍しました。

9月27日（金）、宮崎研究室と時間学研究所フットサル部のメンバーが中心となって壮行会を行い、山田さんの栄転を祝いつつ別れを惜しみました。山田さんは翌朝に引っ越しを控えているのに夜遅くまで付き合ってくれました。

一同、山田さんの九州大学でのさらなるご活躍をお祈りしております！

また、10月11日（金）に英国オンライン科学誌 *Scientific Reports* にて本研究所での山田さんの研究成果『Pattern randomness aftereffect (パターンランダムネス残効)』が刊行され、共同通信、日本経済新聞、山口新聞、東京新聞、新華社通信等の国内外のメディアで取り上げられました。

Yamada Y, Kawabe T, & Miyazaki M. Pattern randomness aftereffect. *Scientific Reports*, 3:2906; doi:10.1038/srep02906 (2013).
<http://www.nature.com/srep/2013/131009/srep02906/full/srep02906.html>



イカにっこり山田さん



集合写真



寄せ書きされたマミーボールと一緒に

時間学だより

オリンピックがもたらす「夢」とその先の現実

辻 正二（保健医療経営大学・教授、山口大学時間学研究所・客員教授、日本時間学会・会長）

2020年開催の夏のオリンピックが東京で開催されることが決まった。しかし、時間学に関心を持ち、社会学者である私にとっては、複雑な気持ちであった。というのは、オリンピックをいま開催する時期なのだろうかという疑問があったからである。

オリンピックは、その理念に「人間の尊厳保持に重きを置く、平和な社会を推進することにある」とあるように、国家間の平和の推進のための祭典であると同時に、主催国家の威信をかけて多大な財源を投じる一大事業ともなっている。前回の昭和39年に開催された東京オリンピックでは、莫大な財源を投じ選手村、代々木の陸上競技場などだけでなく、名神高速道や首都高速道の整備、東海道新幹線の開通、羽田までのモノレールなどが建設された。その結果、東京のインフラや都市整備が他地域と比べて進み、東京の発展が加速し、世界に日本の戦後の復興と発展の達成を強く印象づけた。それと同時に東京への人口集中化も加速した。

今回、開催決定後には、「これで若者たちに7年後という未来への『夢』をもたせることができる」とメディアが沸いた。早速7年後のオリンピックに向けて励む子どもたちの映像も多くなった。高齢者にとっても2度目の「夢」の朗報となっている。1990年代初頭から我が国では厳しい不況が続き、将来への希望をもてない若者たちが増えたが、未来展望を持たない若者にオリンピックがもたらす効果も大きいであろう。株価が上昇し、景気浮揚の兆候もみえているようだ。その一方で、我が国は1000兆に及ぶ国家財源の赤字を抱える。いま我が国は、東日本大震災の復興、福島原発事故の処理などの課題を抱えている。そして、開催した後に新たに生まれる問題は、いま以上に東京と地方の格差の拡大であり、人口減が進む我が国にあって地方の過疎化は、深刻な事態となるはずである。二度目の東京オリンピックへと進み出した我が国は、厳しい現実にも強く立ち向かいながら、未来に展望が持てるような社会を創建していかななくてはならない。

時間学研究所の教育活動紹介

時間学研究所では研究活動だけでなく、その知見を山口大学の学部生、大学院生、そして市民の皆様伝えていくための教育活動も行ってまいります。本号ではそのなかから、「時間生物学」(担当：明石真教授)を紹介します。

理学部3年生を対象とした「時間生物学」の講義では、私たちの体の機能において1日のリズムをつくりだす体内時計(専門的には概日時計)について概説しています。体内時計の生活レベルでの存在意義や疾患リスクとの関係について論じるだけでなく、生物学の一分野として分子生物学的および生理学的側面からメカニズムについても概説しています。

具体的には、体内時計の物質的本体とも言える「時計遺伝子」が発見からその機能解明にいたる分子生物学的研究成果や、脳内の体内時計中枢である「視交叉上核」のリズム発信メカニズムにおける生理学的研究成果などの紹介を行っています。また、本講義では4年生になってから卒業研究に役立つように実験手法の説明にも多くの時間を費やすと同時に、教科書よりは実際の原著論文より抜粋した図表を用いることで、どのようにしてメカニズムが明らかになってきたのか体感できる講義を目指しています。

その他に明石教授が担当している学部教育や大学院教育に関する講義は以下の通りです。

共通教育: 時間学 A、時間学 B、こころとその座、基礎セミナー

理学部: 生物学演習1 (2年生)、時間生物学 (3年生)

理工学研究科修士課程: 時間生物学特論、環境共生学原論2、環境共生生物科学特論

理工学研究科博士課程: 生物時計学特論

研究指導: 論文講究

特別研究指導 (卒業論文、修士論文、博士論文)

その他: 山口大学公開講座「時間学への招待」など

今後のお知らせ

時間学アフタヌーンセミナー in 福岡 「時間と災害」

日時: 11月30日(土) 13:00~16:50

会場: リファレンス駅東ビル
(福岡県福岡市博多区博多駅東1丁目16-14)

演題:

- 『地震考古学から21世紀の大地震を考える』
寒川 旭 先生 (独立行政法人産業技術総合研究所・客員研究員)
- 『巨大地震の余震・誘発地震について考える』
曾根 好徳 先生 (名古屋大学減災連携研究センター・副センター長兼教授)
- 『平成24年九州北九州豪雨を振り返る』
山本 晴彦 先生 (山口大学農学部・教授)
- 『歴史的なタイムスパンで考える土砂災害とその対策〜山口県防府市の土石流災害の事例〜』
鈴木 素之 先生 (山口大学大学院理工学研究科・准教授)
- 『近年の災害から見る避難と時間—報道記者の立場から—』
今林 隆史 記者 (RKB毎日放送株式会社報道部)

※入場無料。予約不要です。(会場定員100名)



研究グループに新たに15名のメンバー加入

時間学研究所には、研究グループ制度があり、山口大学の各学部・センターを中心に学外機関からも時間学に興味をもつ研究者が参加し、以下のような4つあるグループにより研究セミナーの開催等の活動を通じて研究交流を行っております。

第1研究グループ

社会的時間と人間的時間の調和の研究
(リーダー: 杉野 法広 教授・医学系研究科)

第3研究グループ

多文化圏における時間表象の研究
(リーダー: 坪郷 英彦 教授・人文学部)

第2研究グループ

生物に刻まれる時間と環境変遷に関する研究
(リーダー: 岩尾 康宏 教授・医学系研究科)

第4研究グループ

時間に関する、他分野にまたがる研究
(リーダー: 山本 晴彦 教授・農学部)

平成25年度から新たに15名の新しいメンバーが加わり(第一グループに5名、第二グループに1名、第三グループに1名、第四グループに8名)、総勢75名となりました。詳細は下記のサイトをご覧ください:

http://www.writsyamaguchi-u.ac.jp/?page_id=29

毎年度、研究グループメンバーの募集しており、以下のように本年度は6月に募集を行いました。

<http://www.writsyamaguchi-u.ac.jp/?p=656>

時間学に興味をもつ研究者のご参加を歓迎いたします。